

希望の種

ふくおかNPOファイル

⑨

急な用事や買い物で出かけなければならなくなった時、誰かが子どもを預かってくれたら。子育て世代のそんな悩みを解決してくれる場所が、北九州市小倉北区の小倉魚町銀天街にあります。

主に乳児や未就園児を対象とした一時預り施設「ママトモ魚町」です。運営しているのはNPO法人「チャイルドケアサポートセンター」。約40人の登録スタッフの多くは子育て経験者で、全員が保育士の資格者ではありませんが、同市の「ほっと子育てふれあいセンター」で年30回前

チャイルドケアサポートセンター

事務所＝北九州市小倉南区▽電話＝093(967)0708
アドレス＝mamatomo-csc@kind.ocn.ne.jp

後の研修を毎年必ず受講して定着しています。開設4年目を迎えます。開館者は約1万人、一時預りは千人以上。利用者は高い確率でリピーターになるそうです。

カラフルな装飾、安全に配

経験者が子育て支援

慮されたマット、毎日消毒されているおもちゃ。乳幼児1・5人に対しスタッフが1人、就くよう配置するなど手厚い保育態勢を敷きます。ただ、人気の理由はそれだけではありません。託児と同じスペースを、親子のための無料休憩所や子ども用品の常設フリーマーケットとしても活用。ふらりと立ち寄った親同士でつながりが生まれたり、スタッフにアドバイスを求めたりするなど、子育てのサロンとし

て定着しています。チャイルドケアサポートセンターは2001年に設立。一般の保育所ではなかなか預かってくれない病児や病後児を、代表の鶴田貴豊さん(68)が自宅で預かる活動から始ま



広い清潔なスペースで親子がリラックスして過ごせる「ママトモ魚町」

りました。「ママトモ魚町」施設長の平田美香さん(48)は夫の転勤で石川、青森、福岡と引っ越ししながら、双子を含む3人の子どもを育てました。スタッフが自宅に預かる活動から始ま

段落した4年前。「子育て中は、地域の人が助けてくれたり、相談に乗ってくれたりして本当に助かった。今度は自分が誰かの助けになりたい」という気持ちが自然に芽生えたそうです。

全国では15年の待機児童数が2万3千人超(厚生労働省調べ)となるなど、保育サービスの需要に供給が追いついていません。そこには市場が生まれ、多くの民間企業も参入し始めています。ボランティア

ニア中心の「ママトモ魚町」ですが、充実して安心できる保育態勢や信頼感、理念に共感する人々が増えることで、安定した事業収入や寄付を獲得し、子育て世代の貴重なコミュニティとしてあり続けることが期待されます。

近くの小倉井筒屋は昨年から、子育て世代を対象にしたポイントカードの特典として、ママトモ魚町の利用割引クーポンを発行する提携事業を始めました。多くの人が少しずつ力や思いを持ち寄って親子を支える場や仕組みが必要な時代です。「ママトモ魚町があつたから3人目を産もうと思えたんです」という利用者の中には、小さくとも確かな未来の可能性が秘められています。

(仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介)